



## 【神の御前で二種類の人生の道】

聖書：使徒の働き1章12-15節/今週の暗唱聖句：使徒の働き1章14節

説教：鄭南哲牧師

## &lt; 1. 弟子たちが集まった所と名前なしに支えた人たち &gt;

(Rev. Jung nam-chul)

イエスが昇天された後、イエスの弟子たちはオリーブという山からエルサレムに戻ります。13節に“屋上の間に上がった”と書いてあります。そこはマルコの家の一部屋でしたが、正確に言うとマルコと呼ばれていたヨハネという人の母の家の屋上の間に上がって集まった事がわかります(使徒の働き12:12)。多くの学者たちはイエスが最後に弟子たちと晩餐をされた所もきっとこの家の屋上の間であったのではないかと見ています。それだけではなく、イエスが復活された後、弟子たちに訪ねてきた所も、そして、復活されたイエスが40日の間、毎週の主日イエス様と弟子たちが交わりながら食事をされた所もおそらくこのマルコと呼ばれているヨハネの母の家であったとみられています。その後、初代教会がしばらく迫害を受ける時、使徒ペテロが牢屋に入れられた頃、エルサレムの教会がこの屋上の間に集まって夜通し祈ったときがあります。その時もこの家でした。15節によると、イエスの弟子たちだけではなくイエス様に従っていた人々が約120人だったので、こんなに多い人数が入れるところも当時、そんなに多くなかったと思います。ですから、集まりやすかった場所だったので、よく集まったと思うし、そして、マルコと呼ばれるヨハネの母も主の人々と働きのためなら、いつでも自分の家をオープンして仕えていた献身的な信仰の人だったことが分かります。

ところが、考えて見たいところはふっと初代教会が始まった所がこの家であったなら、ここに集った120人が過ごしている間、そして、いつもここで集まった時、だれが彼らを食べさせ、仕えただろうかが気になりました。つまり、だれが集まった人々を毎回給仕したのかです。それはマルコと呼ばれているヨハネの母を含め、イエスの母マリヤとイエス様に仕えていた婦人たちがいました(14節)。120人の中にも相当の女性たちがいたことが分かります。実際イエス様が十字架を背負ってゴルゴタにのぼる時も、十字架につけられて死なれる時も、イエス様が墓に葬られる時も(ルカ23:55)、主を信じて仕えていた女たちがいました。名前すら出てない女たちがイエス様と弟子たちのために仕え、そして、今イエス様のために集まっている120人の信仰の兄弟姉妹たちに仕えたのです。14節に出て来る、この婦人たちがきっと彼女らではないかと思えます。今だにだれもこの姉妹たちの名前も知らないですが、彼女らの献身と給仕によって主の御前で、“よくやった。良い忠実なしもべよ。あなたはわずかなことでも忠実にしたのだ。”と賞賛を受けたはず(マタイ25:21)。

我々のクリスチャンプレイズチャーチの中にも名前もなく、うらで黙々と仕えて下っている姉妹たちがいます。目立ちませんが、うらで主の教会と信徒たちのために静かに仕えている姉妹たちが初代教会の時も今もどれだけ大切なのか分かりません。我々の教会においても本当にすばらしく主の教会と信仰の家族のために仕えている方々に心から感謝を申し上げます。神様の御国でもみなさんの尊いご奉仕と仕えて下さったすべてがかならず宝石のように輝くと信じます。そして、我々の教会に男女を問わず、主と主の教会と兄弟姉妹のために仕える方々がさらに祝福され、多くなりますようにお祈り申し上げます。

## &lt; 2. 少数であっても奇跡の種となる人生：120人の人々 &gt;

マルコと呼ばれたヨハネの母の屋上の間に集まった120人という数字をどう思われますか。当時パレスチナの人口は約400万人でした。400万人の中でたった120人だけが主の福音を継承するために、主が約束された聖霊を待つために、主の命令の通りに地の果てまですべての民族を弟子とするために集まりました。400万人の中で120人は本当に少ない数字です。人々の目にはとんでも小さなからしの種みたいに、何にもない存在でした。しかし主は彼らにすべての期待を全部かけて昇天されました。

愛する信仰の家族のみなさん！神様はいつもこのようにわずかなもので大きい奇跡をなされます。この世においては何にもならない120人ですが、彼らに全世界の運命がかかっている、神の御国を左右する鍵が握られていたのです。

ですから、問題は少ない数字ではありません。むしろ、あまりにも多いため問題になる場合もあります。あまりにも多いため本質を忘れ、一つにならない場合もあります。

14節によると、マルコと呼ばれるヨハネの母の家の屋上の間に集まった120人の中にはイエス様の弟たちもいました。一時期イエス様を理解しようとしなかった人々が、今は変えられて120人の群れの中に一緒に座っているのです。イエス様は我々の過去がどうだったか、過去にどんなにイエス様を悲しませたのか、神様の御言葉に従わなかったことなどに問わないで、今心から主に従い、主の手に用いられたがる人を用いて下さいます。日本の教会にもこのような信仰の人々を必要としています。日本の福音化のために、もしかすると数多くの人々ではなく献身された少数の人々を神様は探しておられるかも知れません。神様に献身し、主のために仕える少数の120人、だれがこの120人になるのでしょうか？私も含めみなさんとこの教会の信徒たちがみな主の120人に含まれてほしいし、少数ですが、神様の奇跡の種として用いられますよう切に祝福し、お祈り申し上げます。

## &lt; 3. 削除された一人の人生；その名前はイスカリオテ・ユダ &gt;

ところが、今日の本文の13節には十二人の弟子たちの名前が記されています。この弟子たちの名前をよく読んで見ると、胸が痛くなります。聖書には4箇所12人の弟子たちの名前が記されています。マタイの福音書10章2節以下、マルコの福音書3章16節以下、ルカの福音書6章14節以下、そして今日の本文使徒の働き1章13節です。記され

た名前の順序はそれぞれですが、共通点はペテロから始まって、イスカリオテ・ユダで終わるということです。しかし、今日の本文の**使徒の働き**の**1章13節**は少し違います。実は一人が抜けた11人の弟子たちの名前しか出てません。抜けた一人の弟子の名前はだれでしょうか。いつも最後に記されていたイスカリオテ・ユダの名前が削除されているのです。イエス様の弟子としてのもう彼の名前は聖書では完全に削除されてしまいました。彼の名前は永遠に取り戻すことのできない名前になってしまったのです。イエス様の弟子であったイスカリオテ・ユダは初めは主の弟子として信仰によってイエス様に従いましたが、金の誘惑と自分の欲望の試みを勝てず、イエス様を裏切って信仰から離れてしまいました。そして、彼は結局、自分の罪責感に捕らわれ自殺で人生を終えてしまいました。なんと哀れな人生になってしまったのでしょうか。イエス様はイスカリオテ・ユダに何度も罪を犯さないように戒め、悔い改めを促すよう、悔い改めるようにチャンスをも与えて下さいましたが（マタイ26：14-25、マルコ14：17-21、ルカ22：20-22）、それにもかかわらず、彼はイエス様の話は聞かず、悔い改めませんでした。

ここで彼と似てたもう一つを考えたいと思います。イエス様の弟子であったペテロも弟子ユダと同じようにイエス様を裏切りました。3度も知らないと言ったのみならず、イエス様に向かって呪っていたイエス様の弟子でした（26：69-75）。ある面においてはペテロの方がもっとずるい面があります。みんながイエス様を裏切っても自分だけは決してイエス様から離れないと大言壮語（たいげんそうご）した一番熱心な弟子だったからです。ところが、ペテロは聖書にイエス様の弟子として最後まで残っているし、変わらず、弟子たちの中で一番目に記されているのです。

イスカリオテ・ユダもペテロも共にイエス様を裏切ったのに果たしてどんな違いがこの二人の人生が分かれるのでしょうか？ペテロはあなたはわたしを三度知らないと言うだろうというイエス様の言葉が自分に与えられた悔い改めの言葉として受け入れ、失敗した後、その言葉を思い出して謙遜に悔い改めたということです。（マタイ26:75）イエス様は我々が完全に完璧なイエス様の弟子になる事を願っておられません。いつでも失敗するときもあり、罪を犯してしまう時もあります。その時、イエス様の言葉を自分に与えられる言葉として握って心から悔い改め、これ以上罪に陥らないように願っておられるのです。

詩篇51篇17節をご一緒に読んでみましょうか。“神へのいけにえは砕かれたたましい。砕かれた悔いた心。神よ、あなたはそれをさげすまれません。” いろんなことを学ばされ、イエス様に愛されていたイスカリオテ・ユダでしたが、結局信仰の道から脱落して、不幸な人生の結末を迎えるとしても残念な人生になってしまいました。

みなさんはこれらの出来事をみながら、何を感じますか。教会においていつも席を守っていた人が見えないと当然、さびしい思いををすると思います。最後の十二番目のイエス様の弟子の座を守っていたイスカリオテ・ユダの悲しい結末を考えながらこれは我々のための警告のような気がします。最後までかならず信仰を座を守りましょう。天の命の書に名前が記されなければなりません。愛する夫、妻の名前が、我々の親と子供たちの名前が記されなければなりません。もし、その名前が命の書から消されるならその後はどうしようもできません。いのちの書を修正することもできず、脱落した人をふたたび御国で会うこともできません。いつかは永遠に消された名前をみて悲しむときがないようにしたいです。そのためにイエスキリストを信じることによって救いに至り、そして最後まで信仰の道をちゃんと歩めるように助け、支える責任と使命が先に信じた我々にあることを覚えましょう。そして、いまからでも目覚めていなければなりません。このように共に祈りませんか。“主よ。私の名が命の書から消されることがないように最後まで守ってください。愛する妻、愛する夫、愛する子供、愛する親、愛する人々みんな、かならず記されるべきその名前が抜けないように導いて下さい。周りの知り合いの人たちや、信じている人々がイスカリオテ・ユダのように信仰から離れ、その名前が削除され、永遠に滅びる存在にならないように我々の信仰を最後まで強め、守って下さい。そして、我々が主にあって共に助け、支えあって共に歩めるように導いて下さい。”

愛する信仰の家族のみなさん！ 霊的世界はこのようにきびしい面もあります。信仰の世界は愛で導き、涙をもってとりなしあう兄弟愛をも示すべきですが、同時にきびしさもあります。いったん信仰の機会を捨てて離れてしまうとだれも同情する人がいません。そのときは神様も同情されません。だれもその以後は助けることができません。これが救いの世界、霊的世界がもっているきびしさです。神様が我々に機会を与え、時間をくださったとき、兄弟姉妹にイエス様の信仰を伝え、彼らが最後まで信仰の道から離れないように惜しまず愛し、彼らのために祈ってあげましょう。助けることができる時、励ますことができる時励ましてあげましょう。信仰の機会が終われば、もう取り戻すことはできないからです。

**メッセージを終わらせます。** 今日人のイエス様の弟子たちとイエス様に従っていた人々はそれぞれ個性も違い、環境も違い、年も、性別も違った人々でしたが、イエス様のため彼らの心はみな一つになりました(14節) 初代教会の初の集まりともいえるこの屋上の間での集まりは信仰も、心も一つになった集まりそのものでした。その中には名前すら知られてないまま主と主の教会と信仰の家族のためにおしまず仕えていた尊い信仰の婦人たちがいたし、神様の約束を待ち望みながらキリストの福音の証人として生きようと決心した120人の奇跡の種のような人々がいました。そしてイエス様の12弟子の中でも結局信仰の道から途中下車（とちゅうげしゃ）された人もいました。我々も主に対する信仰と愛の心をもって主の教会と信仰の家族のために名前なしに仕えましょう。我々の教会に通っている人々の中、だれ一人信仰の座から脱落する人がいないように祈り、最後まで助け合いましょう。御国のための奇跡の種となった120人のように我々のクリスチャンプレイブチャーチも少ない人数ですが、主のために献身された奇跡の種となって尊く用いられる信仰の証人たちとなりますよう救い主イエスキリストの御名によって祝福します。アーメン！